



第1回 大河ドラマ「風林火山」をめぐって 平成18年9月19日
講師/佐倉一徳さん NHK長野放送局企画総務部副部長
樋口 博さん 長野市産業振興部観光課課長

第2回 もっと楽しくて、元気な街づくりを 平成18年10月23日
講師/久米えみさん ながのクラッセ会長
樋口敦子さん ながのまちづくりカフェメンバー

第3回 スポーツによる街づくりを 平成18年11月21日
講師/鷲沢幸一さん アスレながの事務局長
室賀 豊さん 長野市アイスホッケー協会理事

第4回 写真で見る長野の街並み 平成19年1月23日
講師/清水隆史さん フォトグラファーほか
常盤昭二さん CMディレクター

●わいがやサロンスPECIAL
スポーツによるコミュニティ再生 平成19年2月22日
講師/二宮 清純さん スポーツジャーナリスト

第5回 健康と美容を保つために 平成19年3月22日
講師/虎羽里(トラバリ)ゼーラさん アーユルヴェーダ・健康セラピスト

第6回 環境と街づくり
ばていお大門・TOiGOの設計に参画して 平成19年4月23日
講師/竜野泰一さん 株式会社エーシーエ設計 取締役副社長【一級建築士】

第7回 信濃グランセローズの挑戦 平成19年5月21日
講師/木田 勇さん 信濃グランセローズ監督

第8回 スポーツマンシップの大切さ 平成19年8月29日
講師/荻原健司さん 参議院議員・五輪金メダリスト

第9回 トウガラシの尽きせぬ魅力/
「農」による地域活性を探る 平成19年10月24日
講師/松島憲一さん 信州大学大学院農学研究科 准教授

第10回 命のバトンを渡す「ピオトープ」/
長野市をピオトープネットワークシティに 平成19年11月14日
講師/松岡保正さん 国立長野工業高等専門学校 環境都市工学科教授

●わいがやサロンスPECIAL
長野・考/長野の明日を話そう 平成20年2月14日
講師/中馬清福さん 信濃毎日新聞主筆

第11回 簡単・おいしい・オシャレ/わたしのレシピができるまで 平成20年3月26日
講師/浜このみさん クッキング・コーディネーター

第12回 あなたのからだは「築何年」ですか? 平成20年7月14日
講師/角本浩二さん バランスアドバイザー 長野県健康管理士会会長

第13回 アメリカ生活で感じたあれこれ
—変化に対して前向きになることの大切さ— 平成20年8月19日
講師/針谷友久さん 東京中小企業投資育成株式会社 主任(長野県担当)

第14回 市役所第一庁舎及び長野市民会館の在り方を考える 平成20年9月16日
講師/水野守也さん 長野市総務部次長 兼庶務課長

第15回 長野パルセイロ —優勝報告&JFL昇格への挑戦 平成20年10月29日
講師/パドゥ・ピエイラ監督、薩川了洋コーチ、貞富信宏キャプテン

第16回 農業再生とブランド化 平成20年12月3日
講師/町田良夫さん 社団法人長野市農業公社 常務理事

第17回 地上の楽園は馬の背にあり 平成21年2月18日
講師/中山 修さん 中山法律事務所 弁護士

第18回 循環備蓄型の農業の実践
—宇宙のリズムにあった農業で一次産業の再生を試みる— 平成21年6月3日
講師/塩澤研一さん (財)いのちの森文化財団副理事長 (株)水輪ナチュラルファーム代表取締役

第19回 郷土を包む「おやき」 平成21年7月14日
講師/小出陽子さん (同)ふきっ子のお八起 代表/信州おやきブランド化委員会 研究会リーダー

第20回 信州の伝統から生まれる食文化
—漬物の新しい風— 平成21年9月2日
講師/宮城恵美子さん (有)宮城商店専務取締役/木の花屋

第21回 飯綱高原を、もっと住みよく、おもしろく! 平成21年11月24日
講師/志村雅由さん NPO法人 飯綱高原よっこらしよ/代表理事

第22回 JFL昇格に向けて 平成22年3月17日
講師/薩川了洋さん AC長野パルセイロ新監督

第23回 先人の知恵を受け継ぐ〜トチの実、雑穀、あんぼ〜 平成22年5月25日
講師/石沢一男さん (有)田舎工房 代表取締役

第24回 3度目でつかんだオリンピック出場 平成22年7月28日
講師/新谷志保美さん パンクーパーオリンピック代表 (株)竹村製作所 勤務

第25回 逃げないスケルトン ~夢と感動と勇気を~ 平成22年9月15日
講師/越 和宏さん スケルトン競技3大会オリンピック日本代表 (株)システックス所属

第26回 Go to J ~長野にーいよいよ地域決勝大会!~ 平成22年10月25日
講師/鈴木政一さん 長野パルセイロ・アスレチッククラブ強化本部長

第27回 グランドデザインの視点で「信州の食」を考える 平成22年11月30日
講師/千村尚司さん 千村ブレイン代表 ソムリエ

第28回 ご利益のある町づくり 平成23年1月26日
講師/川崎史郎さん フリーライター「アクティブ」主宰

第29回 防災と危機管理 平成23年6月1日
講師/安藤長一さん 篠ノ井消防署署長、緊急消防援助隊長野県隊長(第二次派遣隊)

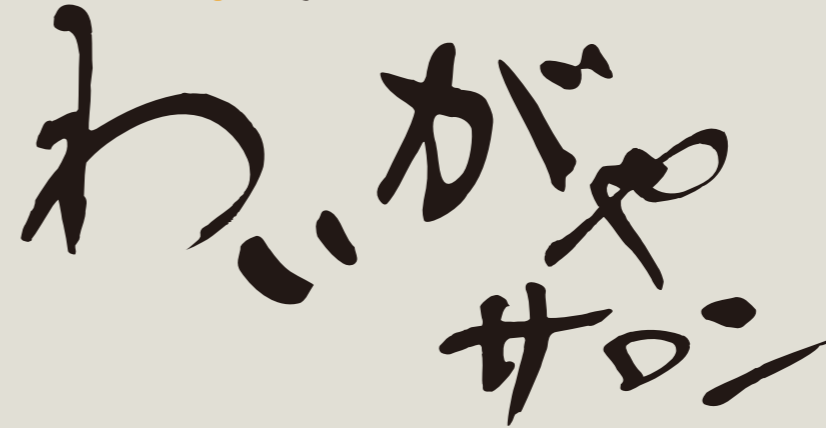
第30回 江戸のエコロジスト 一茶 平成23年8月30日
講師/マブソン青眼さん 俳人・比較文学者

第31回 Waを生かしたまちづくり 長野はもっと元気になる 平成23年9月28日
講師/井上裕子さん 信濃毎日新聞社編集局地域活動部長・編集委員



NUPRI
Nagano Urban Policy Research Institute
NPO 法人 長野都市経営研究所

〒380-0834 長野市大字鶴賀問御所町1289-1丸本ビル2F
TEL.026-235-7911 FAX.026-235-6166
www.nupri.or.jp
e-mail:nupri@nupri.or.jp



通信

Vol. 32
2011.11



中央通り(善光寺表参道)と昭和通りが交わる
新田町交差点

NUPRI
Nagano Urban Policy Research Institute
NPO 法人 長野都市経営研究所

第32回

メディアから見た長野

平成23年10月19日(水) 18:00~20:00

講師／田幸淳男さん 信越放送取締役相談役

■座長 岩野 彰 場所／NUPRI事務所 TEL.026-235-7911

深秋10月のサロンは、長年ジャーナリズムに関わってきた信越放送取締役相談役の田幸淳男さんにおいでいただき、「メディア論」と放送局がなすべき「街づくり」についてのお話をいただきました。

マスコミ (マス・コミュニケーション)論

日本にマス・コミュニケーション論が登場したのは、私が大学に入学した直後で、すかさず講義課目をとり、聞いてみると、これからの日本にとって必要な、かなり広範囲の問題を取り込んでいる。これは勉強しないと、と吸い込まれるように没頭。就職先はマスコミだけに絞り、採用された日本テレビで報道の一端をになうべく歩み始めました。海の向こうのアメリカではCBSのウォルター・クロンカイトが、国内では大森実が活躍しており触発された。そんなとき起きたのが成田事件——(親友だった)TBS社員が農家に頼まれて角材を車内に積み込んでいたことが後に保守派の間で問題になり、TBS闘争など大変な問題に。その対応に組合、若手社員、仲間の萩元晴彦、今野勉らと議論したものです。(そのリーダー格だった田英夫は後にTBSの看板報道番組「ニュースコープ」の司会者を降板。本人は政府の圧力に抗議してやめたと語る。)

そんなスタートを切ったわけですが、試用期間中に私は健康診断でひっかかってしまい自宅療養の身に。回復をみて日本テレビの秋の採用試験を再び受けたが、最終面接で悔しい思いをし、親父の一言で田舎に戻ってきました。ちょうど長野県初の民間放送・信越放送(昭和26年設立。今年が開局60周年にあたる)がラジオにプラスしてテレビを始めるにあたり、社員を一般公募して入社。そのころは若いからよく議論しました。マス・コミュニケーションとは何か——ウォルター・クロンカイトの有名な言葉に「きちんとした情報をもった国民がいて、初めて民主主義国家が成立する」というものがあるが、別の言葉で言う「世の中で起こったことを端的に、出来るだけ正確に国民に伝える」ことだと思っています。

時代・地域に必要な情報

ただし、ただ伝えればいいのではなくジャーナリスティックな角度が必要、そのときの時代に必要な情報を含んでないといけない。今の放送は見るに耐えない、と思っている方は多いでしょう。娯楽番組が大手を振り、質の低いところで甘んじている。こうなるきっかけがありました。放送を皆に見てもらわないといけない。どの程度見てもらっているか知る必要がある。そういう理由で



たこう あつお 昭和9年、須坂市に生まれる。日本テレビを経て昭和33年信越放送(株)入社。局内すべての部署を経験した後、関連会社(株)電算、信越放送(株)の役員歴任。平成18年信越放送代表取締役社長就任、本年より現職。長野市在住

始まったのが電通が中心になって行われた視聴率調査です。「水戸黄門」は当時60%という数字をはじき出しました。広告主協会が賛同して視聴率が重視された結果、制作費がそぐわない番組、視聴率が低い番組は消えるという流れをつくってしまったのです。

時代を経て視聴率は低下・分散傾向にあり、視聴率至上主義に批判が出ています。今、日本のテレビを他の国民に見せて感動を呼ぶものがどれほどあるでしょうか？ 地方局はキー局の番組を流していれば楽だし金もかからないが、独自性を出さないのはメディアとして「負け」。エリアに放送局が増え、それぞれ存続をかけて努力しているわけですが、信越放送は、利益率よりも地域のためによい番組を作ろう。そうすれば最終的にスポンサーになってもらうこともあると考えてきました。その信念を変えたらいけない。それには独自性・地域性をもつこと——ローカル局の人間として、そうした考えがいつも心の中にあり、社員と話したのはこのことが圧倒的に多かったですね。

長所を生かした街づくり

新光電気創業者の光延丈喜夫さんは社会貢献に熱心で「与えることによって(利益は)戻ってくる。私は通常のgive and takeよりも強くgive give and takeで行きたいと思っている」とよく言っておられた。私はそれに感銘を受け、社員にはgive give give and takeの姿勢を要請したものである。

昔から長野はサービスが悪いというのが定評。けれどもオリンピックのときのサービスはよかった。世界的イベントのお客さんだったからだろう。それを日常でもすべきだ。ひいては自分のところに戻ってくるのだから。

私は、長野の街の長所は中央通り(善光寺表参道)と昭和通りが十字に交わっていることにあります。案外こういう街は少ない。長野は何と言っても善光寺を中心にした街だから、その特色をもう一歩進めたい。SBCは、吉田から問御所に移ったことで、建築費、政府援助なしのデジタル化の費用などによる採算低落でしばらく苦しんだが、街の活性化のため社会貢献を考えたことは大きかったと思う。直角に交わる箇所にあるトイゴを核にして昔の権堂や善光寺周辺の賑やかさを創出したい。ついでには建物・広場の使用規制をもっと緩めてもらうべく、市に働きかけている。善光寺の協力も仰ぎたい。いずれにしても街づくりは、個々エゴイスティックな態度を捨て、全体を前向きに考えていくことが必要である。

質問タイムでは「メディアの検証能力が問われているのではないか?」「日本人のレベルが落ちていない」として、つくることはない」等の意見に、田幸さんから「あがいても、とにかく何とかしなくてはならない。涙が出るほど悔しい現況だが、サロンの面々を見て、長野はこれから前進できると確信した」との言を頂戴しました。



長野そごう跡地に2002年、信越放送の移転が決定。メディアと商業・公共施設を融合させたTOiGO(トイゴ)が誕生したのは2006年。それから5年経った

